1. 実践研究対象授業と研究協力校の生徒の実態

(1) 協力校と対象科目：大妻高等学校１学年・高１「論理・表現I」（以下「論・表I」）１単位

・残り1単位分はネイティブの講師が単独で指導

＊教科書に設定された２単元ごとのまとめの言語活動（「話すこと」）を用いて指導・評価

(2) 使用教科書：検定教科書FACTBOOK（桐原書店）

(3)「論・表I」の指導の方向性と事前の準備

・前年度(2022年度）の教科会議「論理・表現」は「論理・表現」をやろう→教科書採択

・3月：全体の方向性を津久井が提案して、担当する日本人教員４人で確認

① 生徒の実態を踏まえて，2～3ユニットの社会的な話題から１つを選び単元を構成

② 言語活動を精選・改変し，少ない授業時数でも必ず言語活動を実施

③「話すこと」から「書くこと」の言語活動へ（教科書の流れに沿う）

→考査後に次の考査までの流れや中心となる単元や活動を検討して指導内容や方法を修正

＊本資料は発表時の資料の一部となります。予めご了承ください。

2.「論・表I」での基本的な指導手順

1. Small Talk
   社会的な話題に関する導入
2. Speaking (やり取り)
   教科書の活動を選択・改変
3. Useful Expressions
   活動に使用する文法のみ確認・練習
4. RETRY Speaking
   同じまたは類似の活動に挑戦
5. Writing
   教科書の活動を選択・改変
6. Grammar
   単元末の文法ドリル・演習

４つの支援や工夫

1. 【協働性１】
   意図的グルーピング
2. 【協働性２】 既習・学習中の論理展開や文法への教師のフィードバックはコメント中心
3. 【協働性＋個別最適化】 書き手自身が書いた英文の疑問や課題、こだわりなどをあらかじめ記入
4. 【実践者として途中から気づいて実践したこと】
   ICTで生徒の実態を見て比較モデルを改変・再提示

4 【実践者として途中から気づいて実践したこと】
ICTで生徒の実態を見て、教師の提示モデルを改変・再提示

生徒：論理展開や構成について説明後に、まずは実際に書いてみる。
教師：生徒が書いたものを基に、教師がモデルを作成し、自身が書いた英文と比較させる。

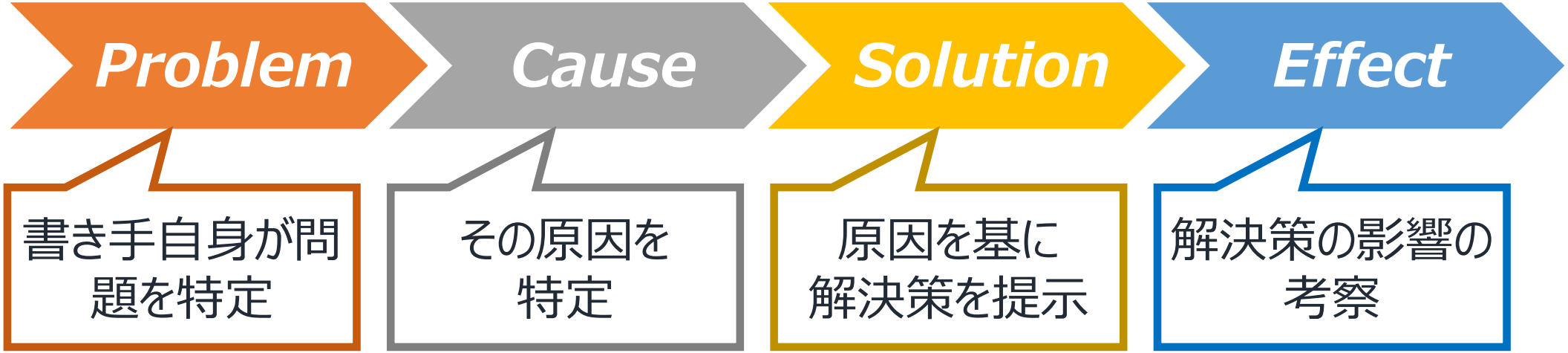
教師の願い：生徒の実態の把握がしやすくなった分、生徒のつまずきに沿った、精度の高いモデルを提示したい！ （できそうな気がした…）

4点目は、高１生学年末、最後の単元の実践例より紹介します。（参考：ARCLEのWEBサイトに学会で発表した際の資料のリンクがございます。詳しくはそちらをご参照ください。）
https://www.arcle.jp/research/edu_english/2023/

単元指導計画の概要

・教科書単元：How can we become foreigner-friendly?

・単元の目標：How can you make your community more foreigner-friendly?というテーマで、構想メモを作成してPCSE（Problem-Cause-Solution-Effect)型の論理展開で100語程度の英文を書くことができる。



単元（5時間）の指導計画

時間	主な言語活動・学習等	家庭学習等
1	○教師のオーラル・イントロダクションを聞く。 ○日本の暮らしやすさについて外国人が制作した動画を視聴し，感想などを伝え合う。	テーマについて情報収集
2	○PCSE型論理展開の説明を聞き，理解を深める。 ・**モデルを提示せず，まず生徒自身が構想メモを作成**する。 ○提示されたPCSE型の論理展開に沿って，メモを作成する。	PCSE型の論理展開に沿って構想メモ完成
3	○PCSE型の構想メモに沿って端的に自分の提案を伝え合う。 ○**個人作成の構想メモをJamboardでグループ内共有**。 ○構想メモを基に，1回目のライティングを書き始める。 ・次時までに全生徒のライティングに教師がフィードバックを行う。	1回目のライティング
4	○**他の生徒や教師のモデルを基に，論理展開について再度確認**する。 ○**グループ内で協力して英文の校正**を行う。 ・3回目以降のリライトについては，生徒の主体性に任せる。 ・既習文法事項への疑問点をFormsで集約し，Q&A集を作成してClassroomにアップロードする（次時の文法説明の焦点化のため）。	2回目のライティング 文法事項に関するFormsに回答
5	○リライトや教科書中の文法問題演習など，**生徒各自が学習を選択して単元学習のまとめ**を行う。	希望生徒はさらに再度リライト

3.「論・表I」での実例より（モデル提示に関わって）

Problem

community, foreigner-friendly について具体的なイメージを持てたら、どんなことが問題となっているか、挙げられるだけ挙げてみよう。日本語と英語の付箋紙がミックスされていてOK!

Cause

それぞれの問題の原因を考えてみよう。
原因を予測したらネットで調べてみてもよい。
Problemの付箋紙に番号をつけておき、Causeの付箋紙と番号を合わせておくと後で整理しやすい。

Solution

異なる問題や原因であっても、視点や発想は参考になるよ。
友だちと意見やジャムボードの共有をしてアドバイスをもらおう！

解決のアイデアを出そう！
「実現可能か」はアイデアを出してから並び替えたり付箋紙の大きさを変えたりして表せばよい。とにかくたくさん出してみよう。
解決していないから「問題」になっているのであって、多少奇抜なアイデアでもOK！

Effect

アイデアをとにかく出す段階では日本語でもいいけど、できる範囲で英語にしておくと後でその表現が使えるね！

その解決策のアイデアを実行することでどんな効果やメリットがあるだろう。
そして、foreigner-friendlyなcommunityが実現するだろう？　よりよく変化するだろう？
この影響の大きさを「インパクト」と言う。どのアイデアが一番インパクトがあるだろうか？

学習したPCSE型の論理展開を用いて、15分程度で146語の英文を書いた生徒（1つ前のスライド）の意識やコメント

・アンケート調査「自分の気持ちや考えなどを英語で書くことが楽しい」

2学期9月末：「あまり当てはまらない」

学年末：「とても当てはまる」

「これからもたくさん英文を書いてみたい」

・年度末のインタビュー調査

「日本語を話すみたいにスムーズに話したい。」

「自分の感情を英語で表現するの，できない。楽しいにもいろいろあるじゃん？　けどなんかいつもあった出来事書いてI'm happyみたいな…。なんかもうちょっと表現できたら楽しいのにって思う。」

まとめ

事前（10月）76名、事後（3月）74名の回答：「とても当てはまる」+「まあ当てはまる」

項目	10月	3月
自分の意見や考えなどを英語で書くことへの抵抗感がある	33名	21名
先生や友だちに英語で自分が書いたものを読んでもらいたいと思う	39名	53名
先生や友だちに自分が書いたものに対してコメントをもらうのは嬉しい	57名	69名
「論理・表現I」に関して、宿題以外に、次の授業までに、予習をしたり復習をしたりすることがある	35名	49名

「論理・表現I」の授業で、自分の意見や考えなどをペアやグループで伝え合う活動は、その後で英語を書くことに役立った. 89.2%

「論理・表現I」の授業で、タブレット（Jamboardなど）にメモを入力する活動は、その後で英語を書くことに役だった. 91.9%

参考文献・資料等

2023年度全国英語教育学会（JASELE）第48回香川研究大会発表資料

2023年度英語授業研究学会第34回全国大会発表資料

https://www.arcle.jp/research/edu_english/2023/